

# 興道会だより

米沢仏教興道会 〒992-1443 米沢市大字笹野170番地 花の里内 TEL0238-38-3328 FAX0238-38-2198 発行責任者/玉木龍晃



## ののさま募金趣意書

先般の米沢仏教興道会正会員会に於いて、街頭托鉢事業を平成十年より実施しておりましたが、参加人数の不足等々の諸事情を勘案した結果、この度、中止させていただきますこととなりました。

それに代わる新しい事業として、竹筒製の募金箱による募金活動を行うこととなりました。

事業名称は正会員の皆様及び興道会職員より応募いただいた中から「ののさま募金」と決定しております。

つきましては、募金箱とポスターをお配りいたします。各御寺院様の本堂や各施設の玄関先などに設置していただき、篤志家の浄財を募っていただきたいと思います。

この募金浄財は、自然災害等の援助金や社会福祉等、有効に役立たせていただきたいと思います。

募金回収につきましては、必要ときに回収させていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

皆様には、趣旨ご理解の上、何卒ご協力をお願い申し上げます。

平成十九年二月吉日

米沢仏教興道会 会長 玉木 龍晃

合掌



## 平成19年度 事業計画(案)

4月24日(火) 正会員総会

■時間/17:00~ 於:一つ待

6月9日(土) 第83回 花まつり

■時間/14:00~ 於:市民文化会館

10月 秋季戦没者慰霊祭

12月 正会員忘年会

平成20年 3月 機関紙「興道会だより」第6号発刊

※上記の他、花まつり関係事業、編集委員会、検討諮問委員会、幹事会及び必要に応じて正会員会を開催。

## 平成18年度 事業報告

■とき/平成18年4月12日(水) ■時間/16:30~ 正会員会総会 於:一つ待

■とき/平成18年6月3日(土) ■時間/14:00~ 第82回花まつり 於:伝国の杜

■とき/平成18年9月15日(金) ■時間/16:00~ 正会員会 於:志ん柳

内容:任期満了による新役員の選出

■とき/平成18年10月23日(月) ■時間/14:00~ 秋季戦没者慰霊祭 於:昌願寺

■とき/平成18年11月30日(水) ■時間/16:00~ 正会員会忘年会 於:志ん柳

■とき/平成19年3月

機関紙「興道会だより」第5号発刊  
竹筒募金「ののさま募金」事業開始

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。

## 寺町サミットに参加して



米沢仏教興道会理事 瀧澤 良祐

「寺町サミット」と言われても、まったく見当がつかず、開催要項を手がかりとしたがイメージがでないままの参加となった。内容は、「寺町を活かした町づくり」をテーマとした寺町ゆかりの都市の市長で構成する寺院都市会議(金沢市、岐阜市、高岡市、飯山市、上越市、米沢市)と、米沢市は、今年から仲間入りしたとのこと。この会議は、今回で十二回を数え、飯山市が担当。「寺町サミット in 飯山」と銘づったものである。

本会から、会長の玉木龍晃師、越中谷恒道師、森正信師、村田恒生師、瀧澤良祐が参加。市からは、安部三十郎市長外、部長、課長、係長等四名の方々に同道願ひ、お世話いただいた。

サミット会場は、浄土宗の古刹「忠恩寺」本堂。「現代に生きる寺町」の基調講演に引き続き、「寺町を活かした協働のまちづくり」をテーマに、参加六市長をパネリストにシンポジウムが行われた。さすが歴史研究に精通した安部三十郎市長は、飯山市等の米沢市との歴史的なかわりを話題に、町づくり構想の中に寺町をどう位置づけるのか主張を展開、多くの感動の声が聞かれた。終了後の交流会では、本会の玉木龍晃会長は、仏教興道会の事業と寺町の存在などを紹介、会場から大きな拍手をいただいた。

社会生活が大きく変容し、寺院(僧侶)の存在とその果たすべき役割が問われている現在、サミットに参加して、各都市の寺院群と檀信徒、寺町周辺のかかわりの姿を知り得たことは、地域社会における寺のある景観、文化・歴史・伝統的な価値に視点をあて、考える機会をもちえたことと共に、有意義であった。今後、会員のみな様とも語り合ってみたいものである。

### 観音霊場巡り

観音信仰は古くからあるが、衆生が日頃出会うあらゆる災難や苦難が、ただ菩薩の名前を唱えるだけで即座に救われるという、七難七生(しちなんしちしよう)の利益の信仰は庶民の中に深く入り込んだ。

又、衆生の苦難に菩薩がさまざまな化身(けしん)して示現(じげん)するという三十三身説は、観音霊場三十三カ所の遍路となつて広く流行した。

この近くでよく知られているのは、最上三十三観音や置賜三十三観音霊場がある。

しかし、地元の米沢三十三観音霊場もあることを知っている方が少ないのは、残念なことである。せつかく、浅からぬ歴史のある霊場を埋もれさせるのは偲び難く、この資料を以て認識を新たにしたいと思う。

今回は五ヶ所を紹介したい

### 二番馬頭観世音

七軒町 常安寺

ねがわくは  
このよもつねに やすうして  
のらのよはまた はあつてなに



### 二十番如意輪観音

東寺町 成就院

くもるまを  
ありくもおたご つゆころ  
いままはれて おがむつきかげ



### 十五番聖観世音

東寺町 観音寺

もろぎに  
みらびきたまい くわんぜん  
おいわかまも はぶあゆみと



### 観音様とは

観音さんは、その昔インド南部のポータラカ(補陀落一ふだらく)山に住んでおられたと伝え、古来よりここを「観音さんの聖地」とする信仰が生まれた。

観音信仰はインド西北部で始まり、さらに中央アジア、中国、チベットへと広がった。

日本では、奈良法隆寺夢殿の救世観音(ぐぜかんのん)や、東大寺法華堂(ほつけどう)不空絹索観音(ふくうけんさくかんのん)など、たくさん観音様が造られ、大いに信仰されて現在に至っている。

観音さんは、一般には観音菩薩、観世音菩薩、観自在菩薩と呼ばれ、救世菩薩(ぐぜぼさつ)、大悲大慈主(だいひだいでいじしゆ)、施無畏者(せむいしや)、蓮華手菩薩(れんげしゆぼさつ)などの別名でも呼ばれる。

インドのサンスクリット語「アパローキテーシユバラ」の漢語訳とされ「生きているもの全てを救うため、いろいろの能力を持つている人」の意味だとされている。

観音(自在)菩薩は唐の玄奘三蔵(げんじようさんぞう)解釈によれば「広く世音を心で観、心で聞いて、苦しんでいる人、悩んでいる人を救うという誓いを立てた菩薩」ということである。

言い換えれば、観音(自在)菩薩は修行のために現世に下りきて、三十三身(無限)の意に変化して私達衆生(凡夫)の救いをもとめる声を観て、瞬間に強力なパワー(念彼観音力)でもって、救いに駆けつけてくれることを誓願(自分に誓った)された菩薩である。音を観るとは音より光のほう「速い」という意味である。

尚、菩薩とはブツダ(仏、覚者)となる以前の過程を指すが、大乘仏教では「悟りを求める人」全てを菩薩と呼び「自らを救うより、他人を救うことに努める者」と解釈されている。

### 三十三観音

米沢札所

- 一番 千手観世音 笹野山 幸徳院
- 二番 馬頭観世音 七軒町 常安寺
- 三番 十一面観世音 馬喰旁町 彌勒院
- 四番 聖観世音 七軒町 照陽寺
- 五番 聖観世音 東町 昌傳庵
- 六番 千手観世音 大町 庚申堂
- 七番 千手観世音 東寺町 輪王寺
- 八番 聖観世音 東寺町 高岩寺
- 九番 聖観世音 東寺町 眞福寺
- 十番 聖観世音 東寺町 龍泉寺
- 十一番 夕顔聖観世音 今町 茂林寺
- 十二番 如意輪観世音 東寺町 極楽寺
- 十三番 聖観世音 今町 元極楽寺(現町内)
- 十四番 如意輪観世音 東寺町 王圓寺
- 十五番 聖観世音 東寺町 観音寺
- 十六番 如意輪観世音 桶屋町 大正寺
- 十七番 聖観世音 花沢 常信庵
- 十八番 聖観世音 鍛冶町 高国寺
- 十九番 聖観世音 免許町 海應院
- 二十番 如意輪観世音 東寺町 成就院
- 二十一番 聖観世音 北寺町 透林寺
- 二十二番 千手観世音 北寺町 西蓮寺
- 二十三番 如意輪観世音 北寺町 関興庵
- 二十四番 聖観世音 銅屋町 正福寺
- 二十五番 聖観世音 桐西 寶幢院
- 二十六番 子育正観世音 北寺町 天正寺
- 二十七番 千手観世音 北寺町 禪透院
- 二十八番 子育正観世音 北寺町 轉輪寺
- 二十九番 千手観世音 龍言寺町 龍言寺
- 三十番 聖観世音 林ノ町 北野庵
- 三十一番 火防正観世音 番正町 松原寺
- 三十二番 聖観世音 御守町 法泉寺
- 三十三番 聖観世音 大町 熊野堂

### 二十三番如意輪観世音

北寺町 関興庵

さいじようの  
みねよりのぼる のりのつき  
ながむるひとの こころにぞすむ



### 三十一番火防正観音

番正町 松原寺

おこしん  
てらまじのの なにふりて  
なむすいも いくまかえん

